



第29回日本脊椎・脊髄神経  
手術手技学会学術集会

# ランチオンセミナー9

## 脊髄髄内腫瘍手術を 安全に行うための 基本原則と技術革新

日時

2022年9月3日(土)  
12:00~13:00

会場

第4会場 (1F 中会議室)  
別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza

座長

谷 諭 先生

東京慈恵会医科大学附属病院 新百合ヶ丘総合病院

演者

高見 俊宏 先生

大阪医科薬科大学 脳神経外科学

 **Ammtec**  
Advanced marketing for medical technology

共催：第29回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会、株式会社アムテック



# ランチオンセミナー9

## 脊髄髄内腫瘍手術を 安全に行うための 基本原則と技術革新

大阪医科薬科大学 脳神経外科学 **高見 俊宏** 先生



髄内腫瘍の摘出成功例の最初は1907年と記録されており、その後の手術顕微鏡等の登場にて、髄内腫瘍の摘出技術が大きく飛躍することとなった。1970年代後半には技術的基本が完成されたと言える (Malis LI, 1978)。髄内腫瘍の手術における成功の鍵は、"Meticulous nonbleeding surgery and experience" (Brotchi J, 2002)であることに全く同感であり、現在においても全く変わっていないし、今後当面は不変であろうと思う。最近の技術革新においては、神経モニタリングの精度向上は当然のこととして、術中蛍光観察およびアシスト内視鏡があげられる。術後QOLと中長期的な腫瘍制御の最良バランスを得るためには、腫瘍摘出の技術が主役であり、臨床研究エビデンスによる治療標準化が難しい。脊髄髄内腫瘍手術を安全に行うための基本原則と技術革新について、自験代表例を中心に紹介する。

## Basic principles and technical innovations for safe surgery of spinal intramedullary tumors

Successful removal of intramedullary tumors was first recorded in 1907, and with the advent of surgical microscopes around 1950s, neurosurgery made great strides. It is estimated that the technique for surgery of intramedullary tumors was almost established in the latter half of 1970s (Malis LI, 1978). Meticulous nonbleeding surgery and experience are the keys to success (Brotchi J, 2002), which has not changed at all even now, and will remain unchanged for the time being. Recent innovations can include not only the accuracy of neurophysiological monitoring, but also the use of intraoperative fluorescence technology and endoscopic micro-inspection tool.